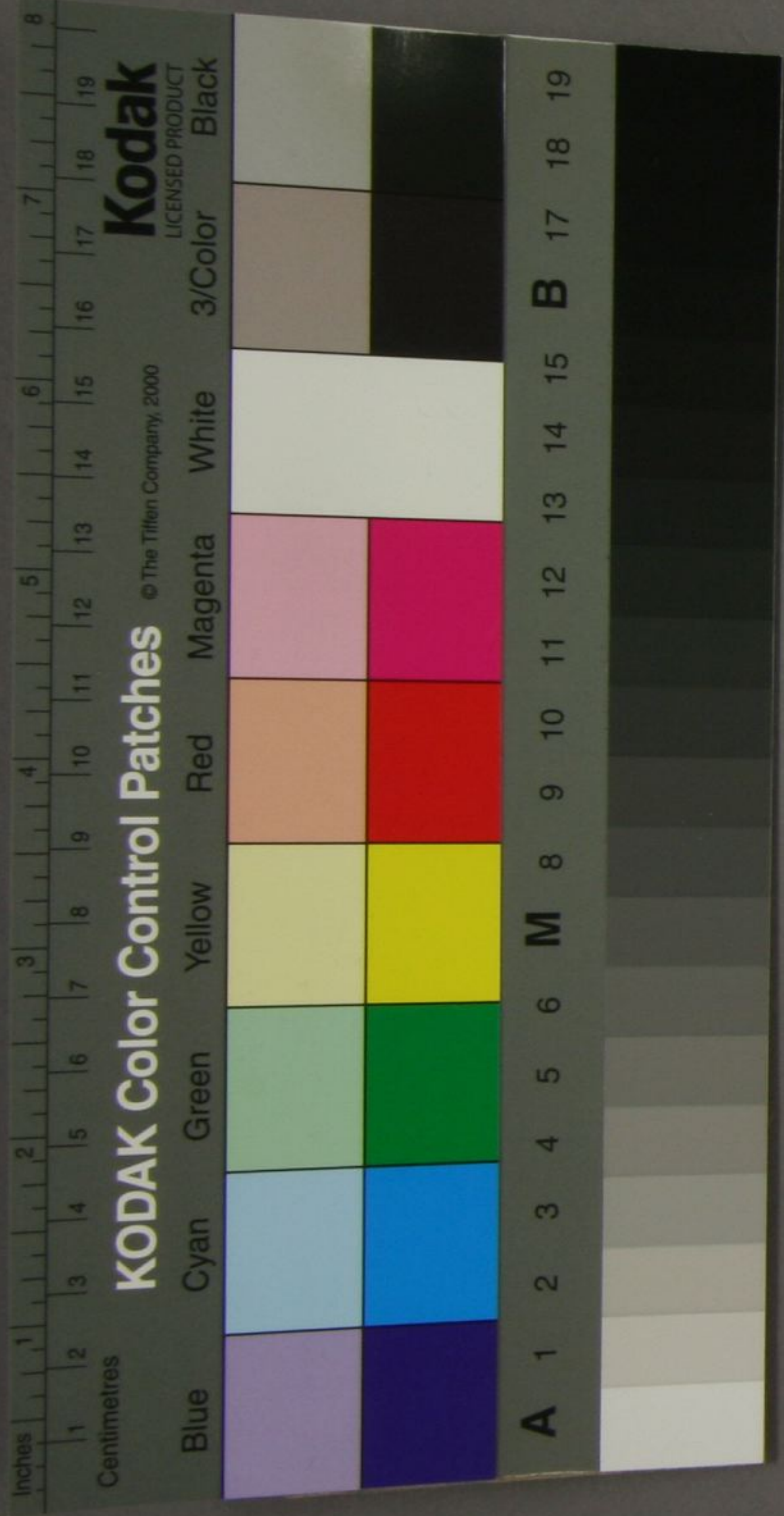




明治十四年七月廿日

外務部 第百十三號

外務部多議 古池官

外務部多議 古池官

代理寺見機一報告

召供之覽也

大正十一年四月贈月

1157

114 A 763



414
A 763

公第一六二九號

別冊報告書在浦潮港貿易事務官代理
寺見機一ヨリ送越候例一如進達仕
候也

外務卿代理

明治廿五年七月十五日
外務大輔上野景範

太政大臣三條實美殿

乙一三六

明治十四年一月乃至六月浦潮港報告

明治十四年一月乃至六月浦潮港報告

氣候

客臘十二月下旬本港並黑龍灣等近海皆結氷
シ本年四月上旬ヨリ解ケ初ノ十五日ニ至リ
全ク解氷セリ結氷中ハ寒度大抵列氏氷点以
下拾度乃至貳拾度就中本年ハ降雪之シク乾
冬凜烈トシテ苦寒殊ニ甚シ解氷後ハ連日春
景ヲ轉シ頃日ニ至テハ山野綠陰ヲ醸シ怡モ
初夏ノ光色ヲ呈セリ然レモ本年ハ風雨稍繁
クシテ冷氣尚去リ難タク客歲ニ比スレバ氣
候之進ミ一層遅シ

雜報

一 本年解氷後本邦ヨリ營業之為メ渡港セシ者

總計百三拾八人内男百拾六人女拾九人男兒
二人女兒一人

一ハバロフカ¹府駐在西地利沿海軍務縣令ナフ
メ子¹氏本般眼病療養トシテ十一月ノ休
暇ヲ賜リ不日歸國出發ノ答ニテ舊¹ラゴウ
エシテンス¹縣令ハ¹ラノ¹氏之¹レニ換リタ
リト、蓋シ¹ナ¹子¹氏ハ元來東方沿海州閑
拓ニ志ヲ注キ既ニ一昨年魯國先帝陛下ノ特
命ヲ帶ビ沿海地方探偵トシテ當方ニ遊歴シ
地理風土ヲ詳ニシ大ニ其論見スル所アリテ
其年歸國復命シ昨年更ニ軍務縣令ニ任セラ
レ親シク先帝陛下ヨリ東方開拓ノ御委託アリ
テ凡特權之勢力ヲ有シ客秋ハバロフカ¹府ニ

來著シ爾來職事ニ汲々トシテ夙ニ該府開墾
ヲ獎勵シ或ハ移民貿易工業等之策畧ヲ畫シ
實ニ其人ヲ得タル者トシテ人民一般之ヲ稱
賛セザル者ナシ然ルニ近來¹ル¹ク¹ツ¹府
駐在東シビリ總督¹ア¹ヌ¹チ¹氏ト隙ヲ生シ
漸行意ノ如クナラズ殊ニ先帝崩御之後ハ每
事¹ア¹ヌ¹チ¹氏ノ妨碍ニ觸レ其為ス所更ニ
適意ナラザレバ自ラ其時機ニ遇ハズシテ志
ノ成ラザルヲ覺知シ終ニ眼病ニ托シテ歸國
スルニ至レリト巷説紛々トシテ其人ヲ惜ミ
而¹ア¹ヌ¹チ¹氏ヲ誹謗セザル者ナキが如
シ抑¹チ¹メ子¹氏ハ日魯間貿易上ニ於ケモ
深ク其志ヲ有シ既ニ先般我輩ノ彼地ニ遊ビ

シ時互ニ交際ヲ厚クシ親シク其舉動ヲ視シ
ニ頗ル卓見博識ノ人ニシテ將來大ニ頼
アリト一同愉快ヲ唱エシニ圖ラズ今般同氏
之歸國セシトハ實ニ我輩ニ於テモ亦遺憾ニ
思フ所ナリ而メ「バ」ラノ「ク」氏ハ尚タ如何ナル
人物乎ヲ詳ニセズト雖モ巷評ニ依レバ當ニ
尋常ノ人ニシテ苟モ「ケ」フメ子「フ」氏之比ニ非
テズト

一 今般東シベリ総督「ア」ヨ「ー」チ「シ」氏「ハ」バ「ロ」フ「カ」
新縣令「ハ」ラ「ノ」フ「氏」初メ高官數名沿海地方探
索之為巡回シ不日本港ニ來著セリト石ニ付
キ本港ニ於テモ市街ノ掃除ヲ嚴ニシ或ハ大
道筋ハ垣壁ニ修繕ヲ加エ杯シテ頓ニ其用意

ヲナセリ

一 頃日「マ」シ「サ」強賊ト稱ス「フ」一「ゼ」述方ニ漂泊シ既
ニ「ウ」ゲ「ロ」ヲ「イ」ニ「港」ヲ「距」ツ「三」十「マ」ヨ「ル」スト「レ」於テ
郵駁ヲ襲撃シ家族四名ヲ殺害シ家財牛馬等
悉皆掠奪シ又路上ニテ工兵二名ヲ擊殺セリ
ト而メ其翌日該地方ニ於テ其強賊壹名捕縛サ
レシニ「ラ」イ「フル」銃及劍ヲ携エ若干ノ彈藥ヲ
所持セリト又「セ」ジ「ミ」本港ヲ「距」ツ「二」十「マ」イ「ル」
リ地方ニ於テハ彼強賊七名ニテ朝人之居留
地ヲ襲ヒ男女三十名ヲ殺害シ金中貳千反ヲ
奪ヒタリト又「ロ」シ「ヤ」島ニ於テモ強賊暴擧ニ
新報アリケレバ追捕ノ為若干ノ兵士ヲ派遣
セリ

一嘗テ魯政府ニ於テ企テシ所ハ本港ヨリ吹風
地方^{「ラズトリナヤ」}迄新道開築ノ事ハ本港在
留ノ魯人^{「ヤシコフスキー」}ナル者受員ヒ魯人
朝鮮人^{「マンザ」}等數多ノ雇夫ヲ募リ既ニ其業
ニ著手シ凡拾^{「ツヨルス」}ト計リハ出來セリト
而メ其入費凡貳拾万^{「ル」}トブルノ見込ナリト
蓋シ其費額ハ尚詳ナラズ

一今般在留ノ商人原田茂吉郎有田猪之介ノ兩
名魯政府ト條約ヲ結ビ陸軍兵團ニ軒^{「各ニ階」}
幅^{「テ長ニナニサジアル」}建築ヲ受員ヒ本邦ヨ
リ石工、大工、及^{「ニ」}泥工等許多ノ職人ヲ連越シ
總計百有餘人ノ雇夫ヲシテ其業ヲ營メリ又
其建築ニ煉化石百貳拾万枚ヲ要スレバ是レ

モ右兩名ニテ引受ケ尙千枚ニ付三十ル^{「ブ」}
ルノ割合ヲ以テ條約セリ而メ其製造ハ大抵
「マンザ」人ヲ遣ヒ當節凡六七十人ヲ以テス、蓋
シ本港官用建築迄ニ繁盛ニ至ルト云モ元來
本港ハ其職人ニ乏シキ故到底御國人ノ營業
ニ係ル者多カル可シ

一先般ヨリ佛人トテ鑛山學者「マルテンス」ナル
者金鑛探究ノ為魯政府ノ依頼ヲ受ケ本港ニ
寄留セシガ頃日其實地經驗トシテ近海ヲ巡
迴セリ同氏ハ先年ヨリ黑龍江地方之金鑛ヲ
調査シ就中「ヤクローク」地方ノ砂金場ニ從事
シ大ニ其成功アリテ終ニ數多ノ俸給ヲ領ス
ルニ至レリ殊ニ同氏ハ實地學ニ達セシトテ

西比利中ニ於テハ頗ル有名ノ人物ナリト
一昨年来英人モリス事^{久シク}我^{高島炭坑ニ從}
氏榮見セシ所ノセジミ炭坑ハ尚着手ニ至ラ
ズ同氏之言ニ允當秋ヨリ其鐵道建築ニ掛ル
可シト蓋シ炭坑ヨリ海岸迄鐵道拾四^{マイル}
ノ見積リニテ何レ其落成ハ来年中ニモ至ル
可シト勿論該事ハ當ニモリス氏之獨行ニ非
ラズ上海英人社會^{コンベン}之起業ニ係レリ而メ其炭
質之良否ハ尚詳ニセズモリス氏之説ニ依レ
ハ頗ル美質ニシテ凡我高島石炭ニ類セリト
一本港ヨリ材木輸出之吏ハ是迄魯政府ヨリ免
許アラザリシガ本年更ニ試賣トシテ本邦並
清国諸港ニ輸出スル事ヲ許シタリ就テハ今

般本港在留ノ佛人ブローブル氏若干ノ材木
ヲ代リ出シ見本トシテ今便本邦ニ向ケ輸送
セリ蓋シ該材木輸出免許之事ハ則チハバロ
フタ^レ縣令チフメ子^フ氏之英斷ニ依テ此ニ至
レリ

商情

一本港商況ハ概メ年々進歩之有様ナリ既ニ昨
八十年輸入高總計貳百七拾四万貳千貳百貳
拾^ハ一^{ブル}ニ至レリ是レ未曾有之事ニテ前
年ニ比較スレバ允^志百万^ハ一^{ブル}餘ノ増加
ナリ而メ諸品皆賣捌ケ甚ヨシト又輸出品モ
年々海產物等増加シ客歲ハ其高貳拾六万^ノ
〇九拾六^ハ一^{ブル}ニ至レリ勿論當方ハ海陸

夫天然產ニ富ハト虽モ尚營業者ノ乏シキヨ
リ膏ニ廢物ニ歸シタレハ漸々本港閑進スル
ニ及ビ其盛大ニ赴クヤ必然之理ナリ凡其天
然產ノ重ナル者ハ海產物ニテ昆布、鮭魚、海參
ノ類又土產物ニテ木材、水獸皮並礦物、石炭ノ
類ナリ、既ニ前章ニ述タル如ク本年ヨリ伐木
輸出ヲ許シタレハ是レ將來當方一大產物ノ
地位ヲ占ムルニ至ルヤ敢テ疑ヒヲ容レサル處
ナリ就中ケードル、ヤセシ、ツブ等ノ如キ造船
ニ適當ノ材木ハ我諸港ニ於テモ必ス適品ト
シテ其需用ニ供ス可シ

一客歲我貿易商會ノ本港ニ閑店セシヤ外國諸
商自ラ競争ヲ起シ或ハ一層營業ヲ加ヘテ商

勢ヲ勵マシ或ハ商店ヲ擴張セン為メ本國ニ
往來シ杯シテ巷說紛々行ハレ恰モ商上ニ戰
闘ヲ開キシ景狀アリ又其等ノ影響ヲ以テ諸
店ノ物價一層下落セリ、僅ニ我一商店ヲ以テ
諸店ノ景氣ヲ動搖スルニ至ルヤ實ニ愉快ト
謂ハザル可シ哉然シ我商會ニ於テモ尚此ニ
注意シ蓋シ其盛大ニ至ラシムルノ策略アラ
シ事ハ既ニ我輩ノ喋々スル所ナリ

一我商會ノ近況頗ル白シ客歲創業ノ砌リハ贊
費非常ニ多ク加之ニ不時ノ火災ニ罹リ若干
ノ損害ヲ蒙シ彼是諸雜費ノ總額ト實ニ意外
ニ出テタリト虽モ又物品ノ賣捌ケ更ニ意外
ニ出タルヲ以テ當節ノ精算ニ依レバ客臘閑

店以降本年解氷後初船ノ入津迄ノ諸雜費ヲ
引除キ尚三千ハールブル之純益アリト、夫レ創
業之際ニシテ尚此利アルヤ實ニ好結果ヲ得
タル者ナラン乎

一 客歲十月ヨリ同十二月迄本港商會へ廻着荷
高元價ニテ合計七万四千六百八十六ハールブ
ル其内五万四千四百三十六ハールブル賣捌ケ
ニ万二百五拾ハールブル計リ尚殘品アリ蓋シ
其内ニテ白米ハ一時ニ餘リ多數ヲ輸入シ且
元價ノ不廉ナルヲ以テ賣捌ケ惡シク尚二万
ハールブル餘ノ白米殘リケレバ他ノ物品ハ悉
ク賣捌ケタリ、該輸入品ノ細目ハ別冊表ニ詳
ナレバ此ニ畧ス○本年四月下旬初船ニテ商

會へ着荷高元價ニテ合計三万九千ハールブル
其内壹万五千ハールブルノ物品ハ本月上旬マ
テ凡一ヶ月餘ニシテ賣捌タリ而シテ其輸入品
ノ種類ハ絹、縮緬及物類並其縫裁諸細工小間
物、鼈甲細工諸品、ケット敷物類、靴、帽子、石鹼等
雜品、漆器、陶器、金銀銅鉄細工諸品、指物、桶類、馬
具刀劍杖ノ類、磚茶、罐漬、酒、烟草、紙類其他食用
品雜種、右ノ内ニテ大抵上等品ハ速ニ賣リ捌
ケリ而シテ近時ノ景況ハ最ヨシ

貿易事務官代理

明治十四年六月

寺見機一稿

